

令和2年8月27日（木曜日）



自民党の足立敏之参院議員は、2020年7月豪雨で被災した大分県を11日に訪ね、洪水調節効果を発揮した松原ダム

洪水調節で効果発揮し下流守った

20年7月豪雨

足立議員、筑後川の2ダム視察

（日田市）と下笠ダム（同、熊本市小国町）を視察した。上流側の下笠ダムが満杯になり異常洪水時の防災操作に移行し放流。下流側の松原ダムがそれを受け止め、日田市内で約1・2

（日田市）と下笠ダム（同、熊本市小国町）を視察した。13年間間にわたる反対運動が展開されたが、両ダムとも1973年に完成した。20年7月豪雨によりダム上流域では、約2日間（7月6日午

の水位低下効果を発揮。足立氏は「二つのダムが連携して洪水を調節し、下流の人々を守った」と胸をなで下ろした。筑後川水系の松原ダムは高さ82メートルの重力式コンクリートダム、下笠ダムは高さ98メートルのアーチ式コンクリートダム。13年間間にわたる反対運動が展開されたが、両ダムとも1973年に完成した。20年7月豪雨によりダム上流域では、約2日間（7月6日午

下笠ダムの洪水調節状況などの説明を受ける足立氏（右から2人目）

画高水位を超過していた。両ダムを視察した足立氏は

「12年と17年の九州北部豪雨では筑後川支川の花月川が氾濫し、日田市内で大きな被害が出た。今回の豪雨では花月川で改修が行われていたので大きな被害がなかった。さらに二つのダムも効果を発揮し、市街地は難を逃れた」との見解を示した。

足立氏に同行していた原田啓介日田市長は「日田市はかつて大きな被害が生じることなく乗り切ることができた」と述べた。

足立氏は下笠ダム貯水池左岸側の土砂崩れ現場と、松原ダムの上流側で被災した杖立温泉（熊本県小国町）を視察。このほか17年九州北部豪雨で激甚な土砂災害が発生し、九州地方整備局筑後川河川事務所が権限代行で復旧・復興を行っている筑後川支川の赤谷川（福岡県朝倉市）の現場も視察した。